

# 経営比較分析表（平成30年度決算）

福井県坂井市 坂井市立三国病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
当然財務	病院事業	一般病院	100床以上～200床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	12	-	ド透訓	救
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
92,004	8,291	第2種該当	10:1	

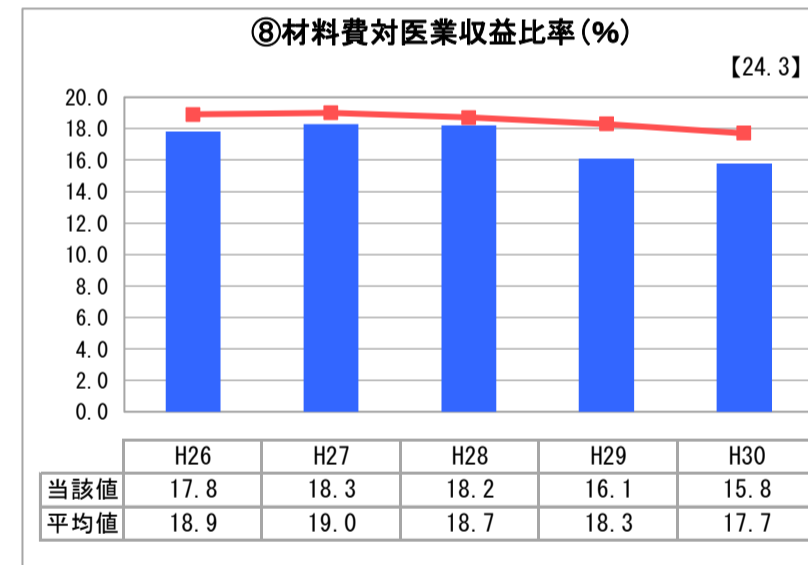
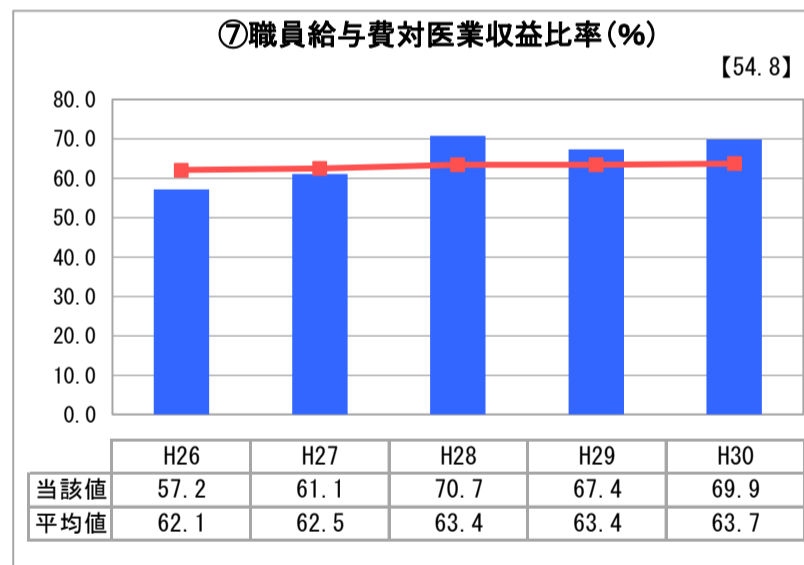
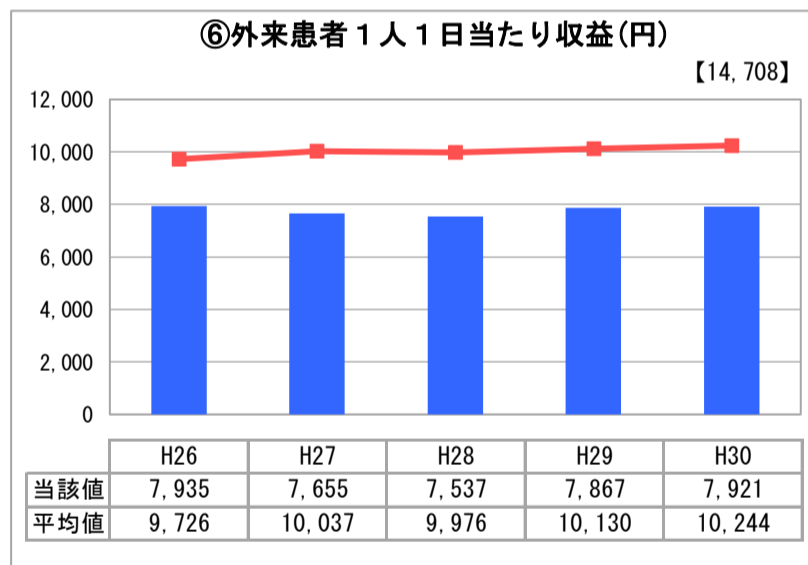
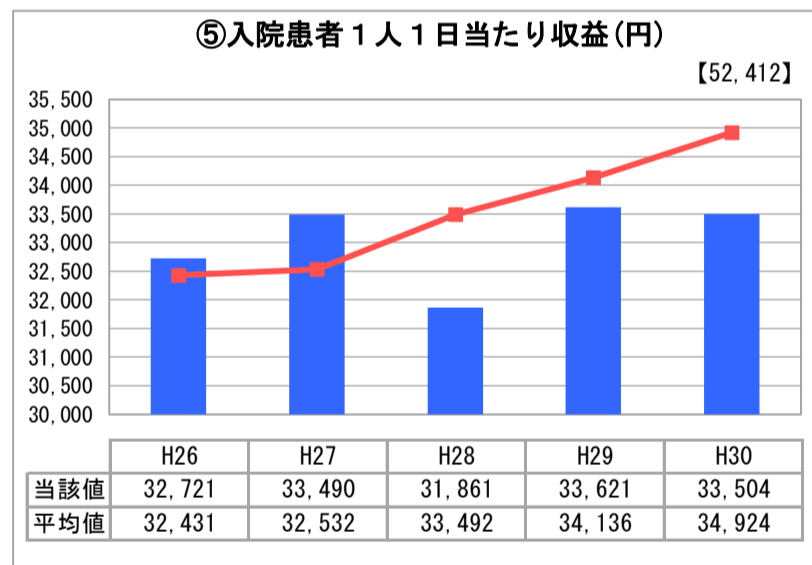
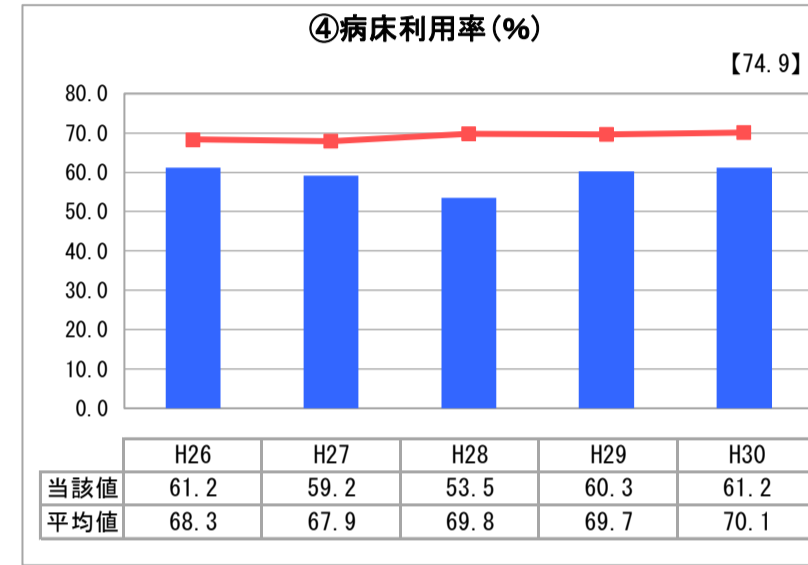
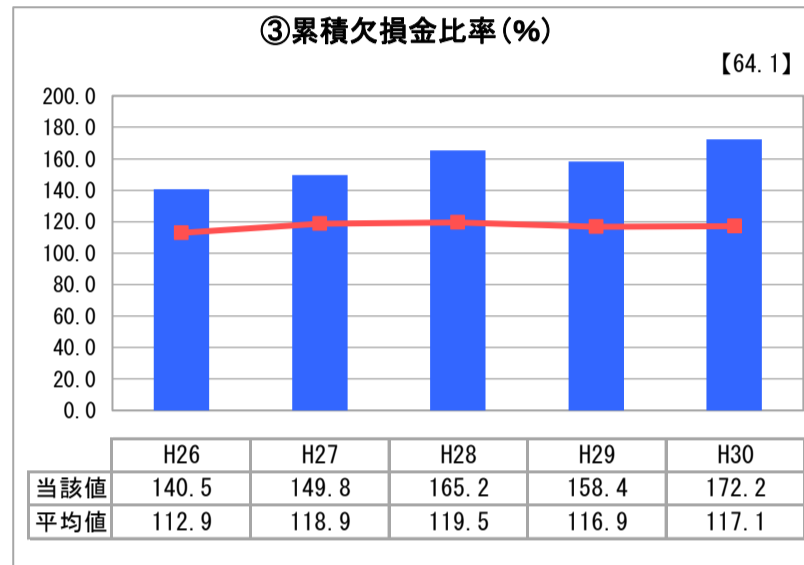
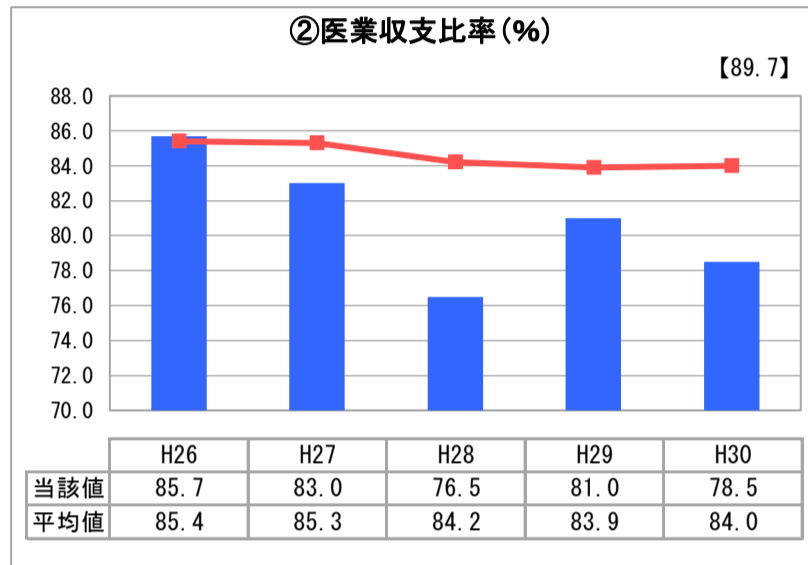
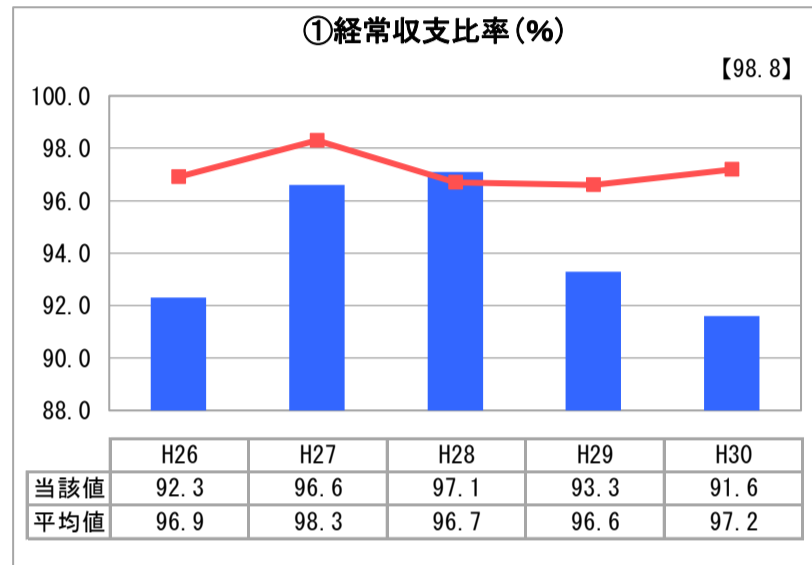
※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

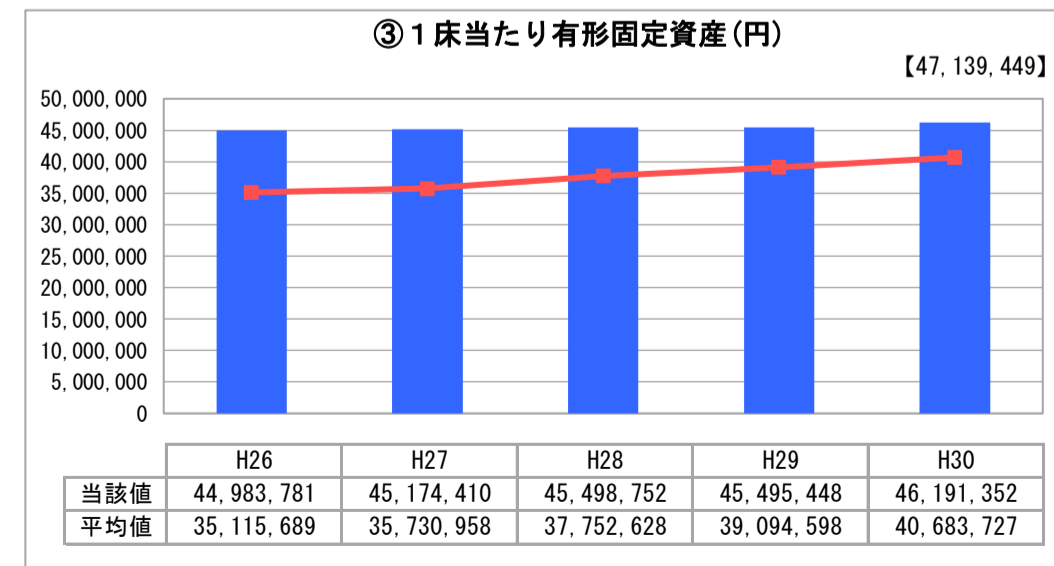
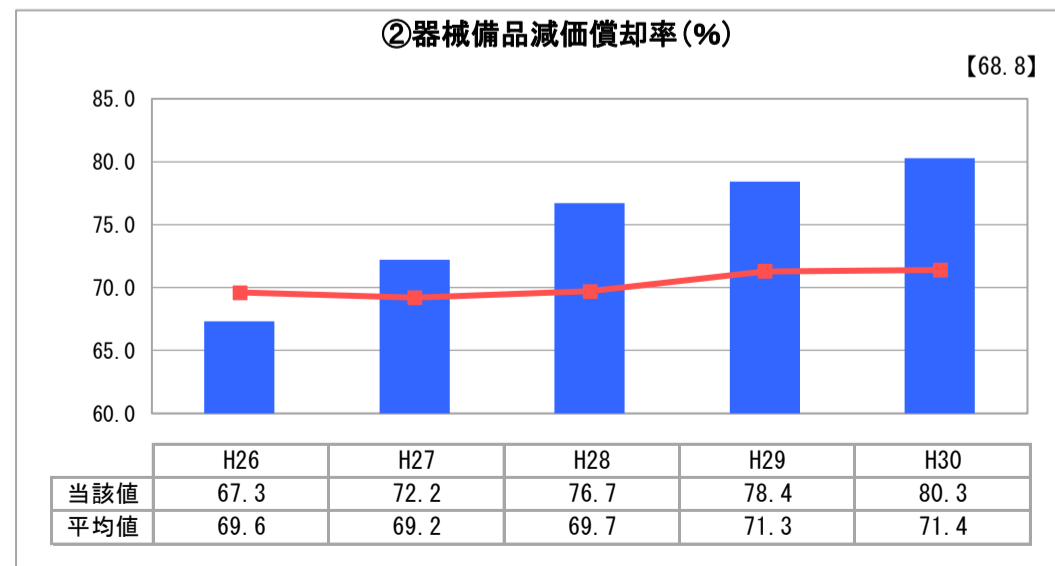
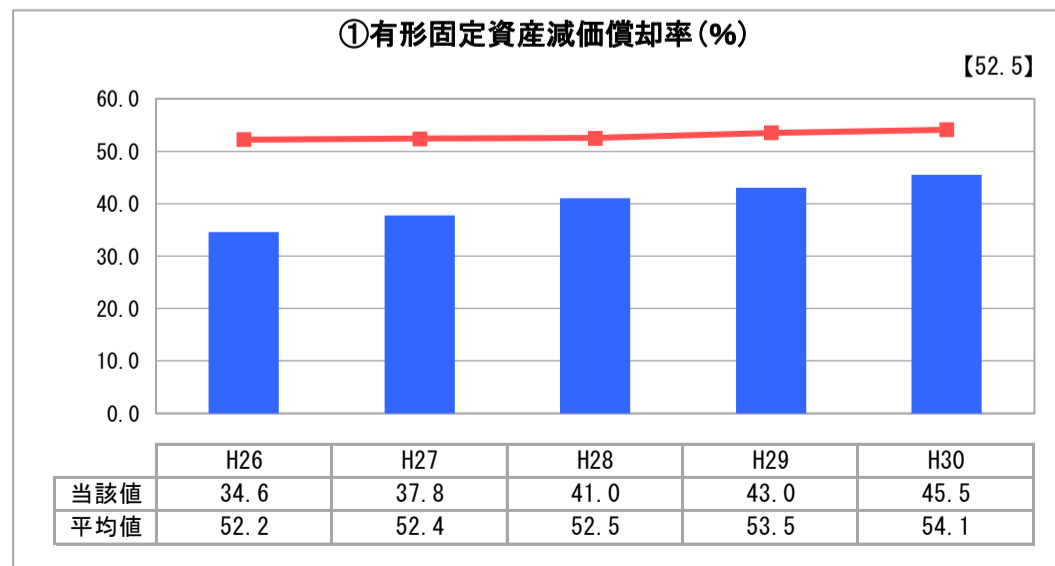
許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
105	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	105
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
105	-	105

グラフ凡例	
■	当該病院値（当該値）
—	類似病院平均値（平均値）
【】	平成30年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）

再編・ネットワーク化	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-年度	-年度	-年度

## I 地域において担っている役割

当院は、市内でも数少ない産婦人科、小児科、人工透析を標榜するとともに救急告示病院として二次救急医療を担い、市民が安心して暮らし、子供を産み育てるための重要な社会インフラとしての役割を担っています。今後もこの役割を継続して担いつつ、高齢化に伴い増加が予想される回復期需要に的確に対応し、福井市をはじめとした急性期病院の後方支援機能を担います。

## II 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

平成29年3月に策定された坂井市立三国病院新改革プランでは、令和2年度までに経常収支比率100%以上、病床利用率70%以上を目標としています。平成29年7月に、プランに基づき地域包括ケア病床を4階病床に43床導入した結果、病床利用率は、目標値に届かなかったものの前年度に比べ増加傾向にあります。入院患者及び外来患者1人1日当たり収益は、どちらも前年度と同様でした。職員給与費比率については、公立病院の使命として、採算性の低い部門、特に産科（分娩等の周産期医療）、小児科等を維持する必要があります。また、救急に対応する医師や看護師の配置（夜間、土・日・祝日等）などがあり、これらを維持するために類似病院と比較して、職員給与費が高い水準にあります。

### 2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率は、類似病院の平均値を下回っています。1床当たり有形固定資産は、類似病院平均値を上回っているため、改善に向けての検討が必要であります。当院は、平成18年に現在の場所に移転して13年以上が経過しており、医療機器については、旧病院の医療機器を継続使用しているものもあるため、老朽化が現れている状態です。今後、医療機器のメーカーから情報・運用管理、故障時のやり取りを調査・検討し、医療機器の更新を図っていきます。

### 全体総括

当院は、平成26年度以降、病床利用率が70%未満である低水準な状況が続いています。そのため、病床利用率の改善と福井県地域医療構想との整合性を図るため、平成29年7月に地域包括ケア病床を4階病床に43床導入しました。その結果、前年度と比較して病床利用率は増加傾向にあります。病床利用率が低い要因として、当院は、公立病院であるが介護施設がなく、さらに、療養病床がないとなると紹介される入院患者が少ないのが現状であります。このような中、今後、当院の職員が一丸となって様々な角度から調査・検討し、新改革プランの目標値である病床利用率70%を目指してまいります。

※ 「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。